

[勝呂廃寺跡(坂戸市)]探訪レポート

「勝呂廃寺跡」は、坂戸市大字石井にある7世紀後半に造られた寺院跡で、埼玉県内最古・最大の古代寺院跡といわれている









勝呂廃寺

埼玉県選定重要遺跡



勝呂廃寺
(埼玉県指定重要文化財)

飛鳥時代の終わりころ（六八〇年ころ）、この地に寺院が建てられました。発掘調査によって、寺院の建物に使われた瓦や鉄の釘、土器などがたくさん出土しました。また、五重塔などの先蹟につけた青銅製の相輪が発見されました。埼玉県内において最古の寺院のひとつです。建物の柱が建っていた部分にコンクリート柱を埋め込む物の一部を示しています。



勝呂廃寺出土の軒丸瓦

田勝呂公民館の周辺は、古くから古瓦が出土することでも知られていました。昭和六年（一九三一年）に刊行された『埼玉県史』には、石井廃寺址として記述されています。昭和五四年（一九七九年）と昭和五五年（一九八〇年）に、寺域範囲確認調査として発掘調査を行いました。この結果、建物の一部、寺域を区画すると考えられる大溝、道路跡、建物に貫いた瓦、釘などが出土しました。また、県内初となった、塔の先端に建てた青銅製の相輪が発見されました。瓦の年代から、勝呂廃寺は七世紀後半（六八〇年前後）に建てられたことが分かりました。これは、県内でも最古のお寺のひとつで、塔の相輪が出土したことは、重層の塔が建っていた可能性を示しています。勝呂廃寺に貫かれた創建期の瓦は、鳩山町にある赤沼瓦窯址で焼かれていました。勝呂廃寺の歴史を考えるには、瓦の生産地や勝呂廃寺を建てた豪族などの遺跡をも含めた広い視野で考えなければなりません。

出土した瓦などは、市立歴史民俗資料館に展示しています。また、建物の基礎として使われたと言われる礎石が、勝呂小学校の校庭にあります。

平成二十年二月

坂戸市教育委員会



建物の柱穴



瓦出土状況

勝呂廃寺

埼玉県選定重要遺跡



勝呂廃寺
(イメージは奈良の飛鳥寺)

飛鳥時代の終わりごろ(六八〇年ごろ)、この地に寺院が建てられました。発掘調査によって、寺院の建物に使われた瓦や鉄の釘、土器などがたくさん出土しました。また、五重塔などの先端につけた青銅製の相輪が発見されました。埼玉県内において最古の寺院のひとつです。建物の柱が建っていた部分にコンクリート柱を埋め建物の一部を示しています。



勝呂廃寺出土の軒丸瓦

旧勝呂公民館の周辺は、古くから古瓦が出土することで知られていました。昭和六年(一九三一年)に刊行された『埼玉県史』には、石井廃寺址として記述されています。昭和五四年(一九七九年)と昭和五五年(一九八〇年)に、寺域範囲確認調査として発掘調査を行いました。この結果、建物の一部、寺域を区画すると思われる大溝、道路跡、建物に葺いた瓦、釘などが出土しました。また、県内初となった、塔の先端に建てた青銅製の相輪が発見されました。瓦の年代から、勝呂廃寺は七世紀後半(六八〇年前後)

に建てられたことが分かりました。これは、県内でも最古のお寺のひとつで、塔の相輪が出土したことは、重層の塔が建っていた可能性を示しています。勝呂廃寺に葺かれた創建期の瓦は、鳩山町にある赤沼瓦窯址で焼かれていました。勝呂廃寺の歴史を考えるには、瓦の生産地や勝呂廃寺を建てた豪族など、坂戸だけでなく周辺の遺跡をも含めた広い視野で考えなければなりません。

出土した瓦などは、市立歴史民俗資料館に展示しています。また、建物の基礎として使われたと言われる礎石が、勝呂小学校の校庭にあります。



建物の柱穴



瓦出土状況

平成二十年二月

坂戸市教育委員会

勝呂地区の歴史を記した石碑







